

三河・遠州地方の地域振興（ムラおこし）PART－Ⅲ

人づくり教育

松 林 光 彦

ま え が き

「ムラおこし」の研究の途上、現地で話し合った各地のリーダー達との間で、必ず話題に登るのが「人」および「人づくり」のことであった。何と言っても、活発に活動している地域には、必ず良いリーダーが頑張っているものだった。その中で、これから望まれるのが若い女性のリーダーの出現であるとのこと。特に中山間地帯の場合、嫁の問題もさることながら、村に残る気のきいた女性は殆どいないとか。私共のように地域の女子学生の教育に係わる者として、大変気になるものであった。もう一度、日常接している学生の性格とその学習について見直してみた。

1. 今の学生は

7年前、本校に非常勤講師として赴任して大きなショックを受けたのは、学生たちの教室での私語の多さだった。これでは、とても長続きしないと思ったものだった。頭にあったものは、私共の学生時代と、依頼されて時々仕事（前の職場の仕事）に関連する話をしに行った時のムード等だったので、その落差があまりに大きかったからである。まわりの諸先生方や、教職に携わっている友人等から「今は当たり前、何処も同じだ」と教わって、なんとか納得したものだった。

その後以来、学生達の意識・行動など少しでも知ることが必要であると、私の教えた講座（社会調査法）を選択した学生についてアンケートを取って来たものを整理してみた。なおこのアンケート結果は、授業中での集計演習用のサンプル資料にしたものである。¹⁾

1－1. 学生の意識・行動についてのアンケート

アンケートに加わった学生数は次の表のとおりである。

入学年度(年)	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994
学 生 数 (N)	71	178	197	125	157	190	201	177

(年齢は18～19才)

調査の時期は夫々の年の講座の開始日（初日）に約20分程の時間で行ったものである。

調査項目は、学生の生活領域の身の周りのことについて、衣生活、食生活、住生活、働き（仕事・労働）、遊び、学び（勉学）、交際、お金（収入）などである。

そして夫々の項目について、**現在（アンケート時）の意識**として、次の3選択肢から1つを選択させた。

- ①. 人と違っていたら気になるし恥ずかしい
- ②. 人と違っていても全く気にならない
- ③. 人と違っていても個性的でいい

また、**現在（アンケート時）の行動**として、次の2選択肢から1つを選択させた。

- ①. 人と同じようにしている
- ②. 人と違ったことをしている

次に、同項目について**今後どうなりたいかの意識**として、次の6選択肢から1つを選択して貰った。

- ①. 人と違えたくない
- ②. 人と同じでいい
- ③. 人より上にしたい
- ④. 人より下でもいい
- ⑤. 人と全く違えたい
- ⑥. 人は気にしない

1-2. チェックのポイント

衣生活、食生活、住生活、働き（仕事・労働）、遊び、学び（勉学）、交際、お金（収入）の各項目について

- a. 夫々の選択肢の要素の経年変化
- b. **現在（アンケート時）の意識**と**行動**のクロス比較

意識グループ：人と違ってると気になるし恥ずかしい 無意識グループ：人と違っていても気にならない+個性的でいい	と
---	---

行動 の <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td style="padding: 5px;"> 同化グループ：人と同じようにしている 異化グループ：人と違えている </td> </tr> </table> とのクロス比較	同化グループ：人と同じようにしている 異化グループ：人と違えている
同化グループ：人と同じようにしている 異化グループ：人と違えている	

- c. **現在（アンケート時）の意識**と**今後どうなりたいかの意識**の各要素、及び**今後どうなりたいかの意識**間のクロス比較
 例えば「学び」と「収入」、「働き」と「収入」etc
- d. その他各種のクロス比較

なお b, c, d のデータ表およびグラフは a のデータ表より個々に取り出せば出来るので紙面の都合上省略する。

1-3. アンケート結果

1-3-A: 経年変化・現在のデータ

現在						(%)
衣生活	意識：人と違っていたら			行為・行動は		
	気になるし恥ずかしい	全く気にならない	個性的でいい	人と同じにしている	人と違った事をしている	
1987	39.0	11.0	50.0	91.0	9.0	
1988	39.0	19.0	42.0	78.0	22.0	
1989	44.4	14.8	40.7	70.4	25.9	
1990	33.9	25.6	40.5	77.7	19.8	
1991	33.8	17.2	49.0	68.8	28.0	
1992	39.5	19.5	41.1	85.8	14.2	
1993	30.8	24.9	44.3	79.1	19.9	
1994	47.5	19.8	32.8	88.1	10.7	

現在						(%)
食生活	意識：人と違っていたら			行為・行動は		
	気になるし恥ずかしい	全く気にならない	個性的でいい	人と同じにしている	人と違った事をしている	
1987	7.0	78.0	15.0	94.0	6.0	
1988	11.0	79.0	10.0	81.0	19.0	
1989	7.4	81.5	11.1	77.8	22.2	
1990	10.7	79.3	9.9	84.3	12.4	
1991	5.7	83.4	10.8	66.9	29.9	
1992	11.6	77.4	11.1	93.2	6.8	
1993	9.0	75.1	15.9	75.6	22.9	
1994	11.1	78.0	10.2	84.2	15.8	

現在						(%)
住生活	意識：人と違っていたら			行為・行動は		
	気になるし恥ずかしい	全く気にならない	個性的でいい	人と同じにしている	人と違った事をしている	
1987	15.0	35.0	50.0	92.0	8.0	
1988	23.0	58.0	19.0	84.0	16.0	
1989	18.5	47.2	29.6	81.5	18.5	
1990	17.4	63.6	19.0	82.6	14.0	
1991	16.6	48.4	35.0	69.4	26.8	
1992	27.9	47.4	24.7	93.2	6.8	
1993	15.9	55.2	28.9	80.6	17.9	
1994	31.1	46.9	22.0	89.3	10.7	

現在						(%)
働き	意識：人と違っていたら			行為・行動は		
	気になるし恥ずかしい	全く気にならない	個性的でいい	人と同じにしている	人と違った事をしている	
1987	22.0	46.0	32.0	89.0	11.0	
1988	22.0	50.0	28.0	83.0	17.0	
1989	17.4	48.1	34.4	82.4	15.1	
1990	24.8	50.1	24.8	84.3	12.4	
1991	20.4	40.1	39.5	68.2	27.4	
1992	22.1	38.4	39.5	89.5	10.5	
1993	16.9	46.3	36.3	84.1	13.4	
1994	33.9	45.2	20.3	88.1	11.9	

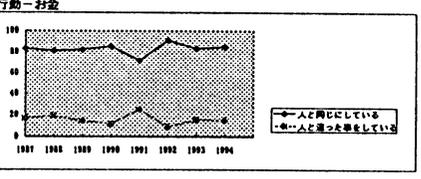
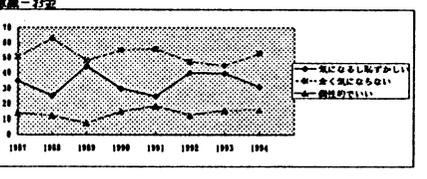
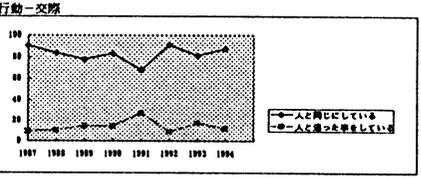
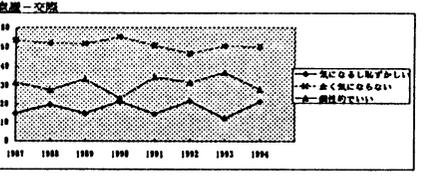
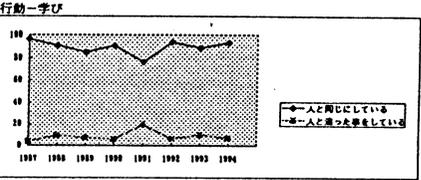
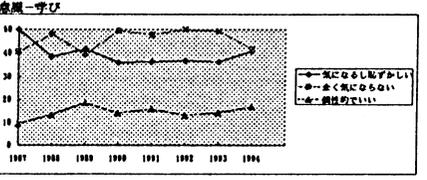
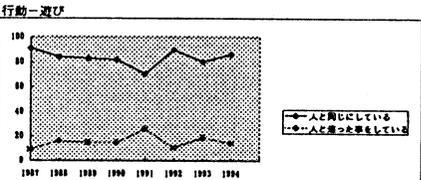
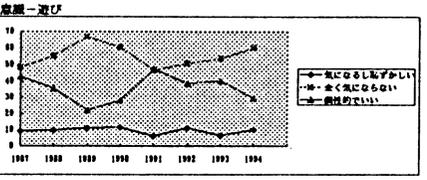
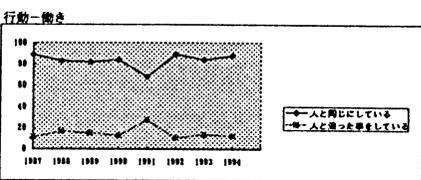
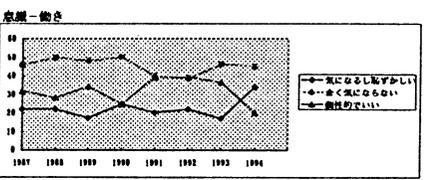
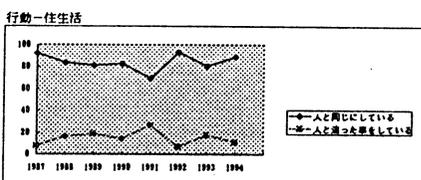
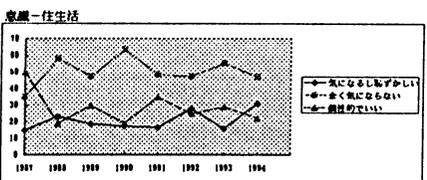
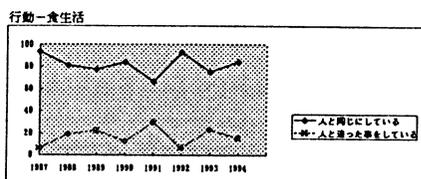
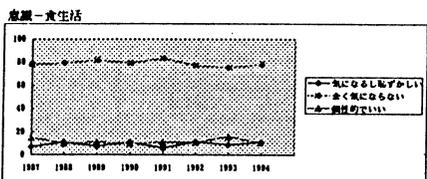
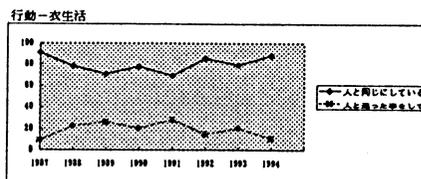
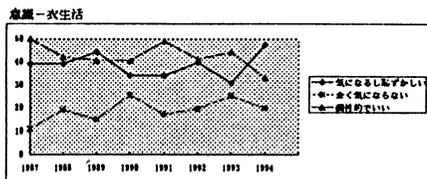
現在						(%)
遊び	意識：人と違っていたら			行為・行動は		年度
	気になるし恥ずかしい	全く気にならない	個性的でいい	人と同じにしている	人と違った事をしている	
1987	9.3	48.1	42.6	90.7	9.3	
1988	9.6	55.1	35.3	83.9	16.1	
1989	11.1	66.7	22.2	82.5	14.8	
1990	11.6	60.3	28.1	81.8	14.9	
1991	6.4	46.5	47.1	70.1	25.5	
1992	11.1	50.5	38.4	89.5	10.5	
1993	6.5	53.2	40.3	79.6	18.9	
1994	10.2	59.9	29.4	85.9	14.1	

現在						(%)
学び	意識：人と違っていたら			行為・行動は		年度
	気になるし恥ずかしい	全く気にならない	個性的でいい	人と同じにしている	人と違った事をしている	
1987	50.0	40.7	9.3	96.3	3.7	
1988	38.5	48.1	13.4	90.8	9.2	
1989	41.9	39.6	18.5	85.2	7.4	
1990	36.1	49.6	14.0	90.9	5.8	
1991	36.3	47.8	15.9	76.4	19.1	
1992	36.8	50.0	13.2	93.7	6.3	
1993	36.3	49.3	14.4	88.6	10.0	
1994	41.2	41.8	16.9	93.2	6.8	

現在						(%)
交際	意識：人と違っていたら			行為・行動は		年度
	気になるし恥ずかしい	全く気にならない	個性的でいい	人と同じにしている	人と違った事をしている	
1987	14.8	53.7	31.5	90.7	9.3	
1988	19.5	52.1	27.5	83.7	10.7	
1989	14.8	51.9	33.3	77.8	14.8	
1990	21.5	55.4	23.1	83.5	14.0	
1991	14.6	51.0	34.4	68.2	27.4	
1992	21.6	46.8	31.6	91.1	8.9	
1993	12.4	50.7	36.8	81.1	17.4	
1994	21.5	50.3	27.7	87.6	11.9	

現在						(%)
お金	意識：人と違っていたら			行為・行動は		年度
	気になるし恥ずかしい	全く気にならない	個性的でいい	人と同じにしている	人と違った事をしている	
1987	35.0	51.0	14.0	83.0	17.0	
1988	25.0	63.0	12.0	81.0	19.0	
1989	44.4	48.1	7.4	82.1	14.5	
1990	29.8	55.1	14.9	85.1	11.6	
1991	24.8	56.1	18.5	71.3	24.8	
1992	40.0	47.4	12.6	91.1	8.9	
1993	39.8	44.8	15.4	83.1	15.4	
1994	31.1	53.1	15.8	84.7	14.7	

1-3-B: 経年変化・現在のグラフ



1-3-C: 経年変化・「今後は」のデータ

今後は								(%)
衣生活	人と							
	年度	変えたくない	同じでいい	上にしたい	下でもいい	全く変えたい	気にしない	
1987	4.5	31.8	26.9	0.0	9.1	25.0		
1988	2.9	29.0	26.0	0.5	6.3	35.3		
1989	7.4	29.6	18.5	3.6	14.9	25.9		
1990	1.6	18.4	26.1	1.6	5.6	46.1		
1991	1.3	26.8	31.8	0.0	5.1	35.0		
1992	1.6	25.3	27.4	2.1	5.3	38.4		
1993	1.5	21.9	15.9	0.5	8.5	51.7		
1994	4.0	38.4	27.1	0.0	3.4	26.6		

今後は								(%)
食生活	人と							
	年度	変えたくない	同じでいい	上にしたい	下でもいい	全く変えたい	気にしない	
1987	0.0	47.7	27.3	0.0	0.0	25.0		
1988	1.5	37.0	11.0	0.5	0.5	49.5		
1989	0.0	25.9	3.6	7.4	3.6	59.3		
1990	2.4	40.8	16.0	0.0	0.8	40.0		
1991	1.9	34.4	14.6	2.5	1.3	45.2		
1992	0.0	42.6	11.6	1.6	0.5	43.7		
1993	0.5	34.8	6.0	2.0	1.0	55.7		
1994	0.6	42.4	16.4	1.7	1.1	37.9		

今後は								(%)
住生活	人と							
	年度	変えたくない	同じでいい	上にしたい	下でもいい	全く変えたい	気にしない	
1987	3.0	26.0	33.0	0.0	4.0	29.0		
1988	4.0	27.0	29.0	0.0	4.0	34.0		
1989	0.0	44.4	11.6	0.0	3.4	40.7		
1990	3.2	22.4	28.8	0.0	4.8	40.8		
1991	1.9	24.8	35.0	0.6	5.7	31.8		
1992	0.0	23.2	33.7	0.0	4.7	38.4		
1993	1.5	21.4	23.4	2.0	6.5	45.3		
1994	1.7	31.1	35.6	1.7	4.0	26.0		

今後は								(%)
働き	人と							
	年度	変えたくない	同じでいい	上にしたい	下でもいい	全く変えたい	気にしない	
1987	0.0	38.6	43.2	0.0	6.8	11.4		
1988	1.0	30.7	31.7	1.4	3.8	30.3		
1989	3.5	25.5	43.9	0.0	11.1	14.7		
1990	4.8	37.6	28.8	2.4	5.6	20.8		
1991	1.3	22.9	41.4	1.3	5.7	27.4		
1992	2.6	33.2	40.5	1.1	5.8	16.8		
1993	2.5	30.3	35.3	0.5	4.0	27.4		
1994	1.7	33.3	36.7	0.6	3.4	24.3		

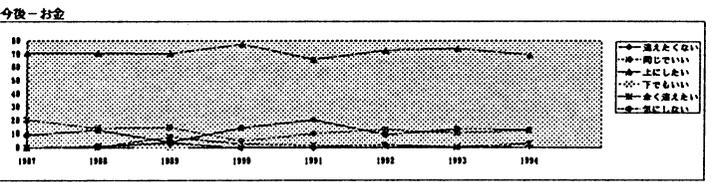
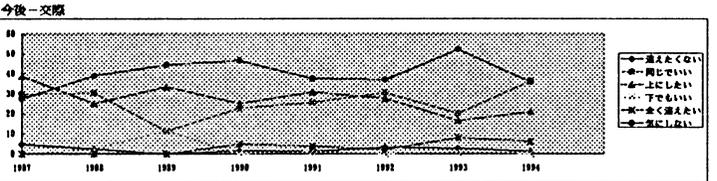
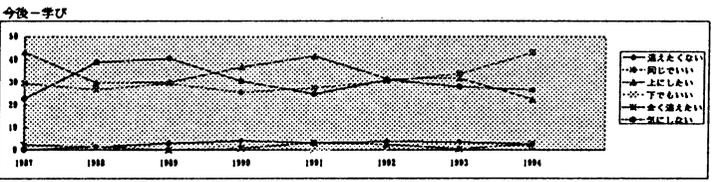
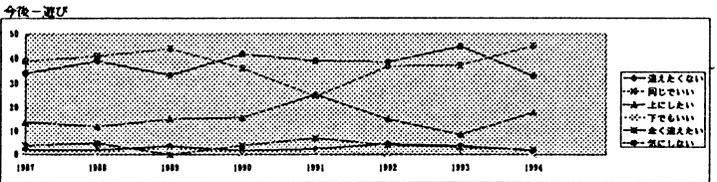
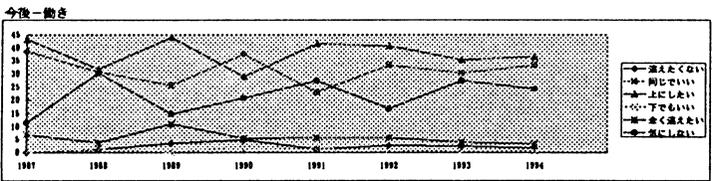
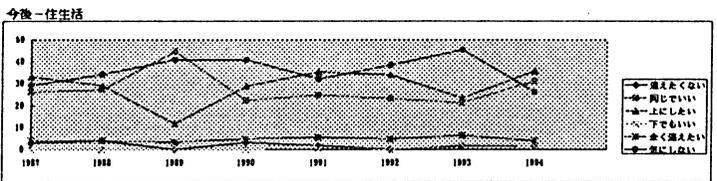
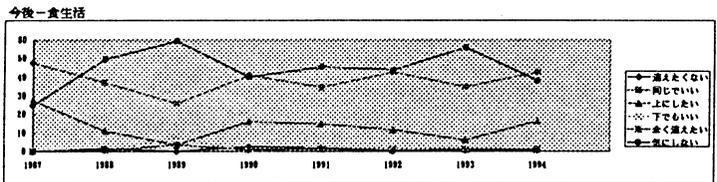
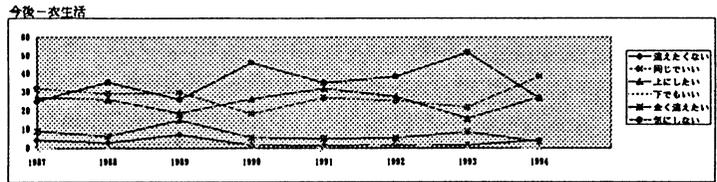
遊び		今後は 人と						(%)
年度	違えたくない	同じでいい	上にしたい	下でもいい	全く違えたい	気にしない		
1987	2.0	39.0	14.0	1.0	4.0	34.0		
1988	2.0	41.0	12.0	1.0	5.0	39.0		
1989	3.7	43.9	15.1	3.2	0.0	33.3		
1990	1.6	36.0	16.0	0.8	4.0	41.6		
1991	2.5	24.8	25.5	1.3	7.0	38.9		
1992	4.7	36.8	15.3	0.5	4.2	38.4		
1993	3.8	37.3	8.5	2.4	3.3	44.8		
1994	1.7	45.2	18.1	0.0	2.3	32.8		

学び		今後は 人と						(%)
年度	違えたくない	同じでいい	上にしたい	下でもいい	全く違えたい	気にしない		
1987	0.0	29.5	43.2	2.3	2.3	22.7		
1988	1.4	26.8	29.7	1.9	1.4	38.8		
1989	3.1	29.5	30.1	0.0	0.0	40.5		
1990	4.0	25.6	36.8	2.4	0.8	30.4		
1991	3.2	27.4	41.4	0.0	3.2	24.8		
1992	3.7	30.5	31.6	0.5	2.6	31.1		
1993	3.5	33.8	31.8	2.5	0.5	27.9		
1994	2.8	42.9	22.6	1.7	2.8	26.6		

交際		今後は 人と						(%)
年度	違えたくない	同じでいい	上にしたい	下でもいい	全く違えたい	気にしない		
1987	4.6	29.5	38.6	0.0	0.0	27.3		
1988	2.4	30.1	24.9	2.4	0.0	38.8		
1989	0.0	11.1	33.3	11.3	0.0	44.4		
1990	1.6	22.4	24.8	0.0	4.8	46.4		
1991	1.3	25.5	30.6	1.3	3.8	37.6		
1992	3.2	30.5	27.4	0.0	2.1	36.8		
1993	2.5	19.9	16.4	1.0	8.0	52.2		
1994	1.1	36.2	20.9	0.0	6.2	35.6		

お金		今後は 人と						(%)
年度	違えたくない	同じでいい	上にしたい	下でもいい	全く違えたい	気にしない		
1987	0.0	20.5	70.5	0.0	0.0	9.1		
1988	1.0	13.9	70.7	0.5	0.5	12.5		
1989	3.5	14.8	70.4	0.0	7.5	3.6		
1990	0.0	4.8	77.6	0.8	2.4	14.4		
1991	0.0	10.2	66.2	1.3	1.9	20.4		
1992	2.1	13.2	72.6	1.1	1.6	9.5		
1993	0.5	10.4	74.1	1.0	0.5	13.4		
1994	1.1	12.4	69.5	1.1	2.8	13.0		

1-3-D: 経年変化・今後のグラフ



1-4. データを見て

戦後50年、学校教育制度も変遷を重ね最近の教育改革の掛け声の高まりとともに、またここ数年間、バブル経済の上昇期から転落期、世界的大変動期を経て学生達の意識・行動のパターンも、この動きに連動して変化しているもの、そして個性的な、積極的な学生が増加して来ているものと考えて来たが、意外と変らないものだ。ここ8年間では殆ど変化は無かったと言えそう。どちらかと言えば今年（94年度）の学生達は回帰傾向が出ている。

最初に、このアンケートに回答した学生達が、例に挙げた8つの身の周りの項目について、何れの項目とも生活意識とその行動に非常に大きな乖離があることである。また今後に対する意識も非常に気になるものが多い。向学心に燃えてとか、ある目的に向かって努力しようと言うような考えも少ない。「如何に楽をして、世間並みにそこそこの生活が出来ればよく、学校も卒業の肩書きがあればよく、楽しく遊んで過ごしたいが人生を楽しむお金だけは十分に欲しい」と言う現代の若者のイメージが出て来る。日本人の人並意識と特に「三河の連れ小便」「石橋を叩いても人より先に渡らない」に代表される三河地方の特性が加わっている結果であった。

これらの学生達は、豊かな時代に生まれて来て現在に満足しているのなら幸いかもしいが、私のように古い世代の感覚を持った者からすれば、やる気のない、心配な若者達と映るが、これらの若い女性達を地域振興のリーダーとして育て上げなければならないとしたら、どの様に接し、教えて行ったらよいのだろうか。

2. 今までの学習環境は²⁾

戦後の混乱期を過ぎて、高度成長期以来日本社会・国民とも先進国家を目指して、生産性の向上、効率や便利さのみに重点を置いて、その改良・改善・発展のみを追求して来た結果、自然環境、家庭生活やその居住地域社会が破壊されて来た。それに引張られて教育の環境も大きな変化があった訳である。私など40年間別の分野で仕事一筋（能率一辺倒）で走った者にとって、この教育の世界の変化は予想外に大きい。小学生時代終戦を迎え、教科書に墨を塗りながら、当時のあの厳粛さの代表だった先生達の変わり身の早さに驚嘆して以来、人間とは利己主義に走るものだと学ばされたものだった。以後個人を育てる民主主義教育が行われて来た訳だが、余裕の無い資源小国の悲しさか熾烈な競争社会路線が高度成長時代益々加速され、「入学試験で良い点を取って入学すればよい」「難しい知識を持っている子供が優れた子供である」と言ったような教育面での入試への能率至上主義や偏差値教育への偏重さが想像を超えたものだったことである。昨年から、この偏差値への文部省の対応も遅まきながらも歓迎出来るものであるが、この弊害は、自分で自分からものを体験し、なぜそうであるのか自分の頭で考え、自分なりの回答を得る為のプロセスが欠けて来るので、この結果思考力の低下が心配されるのである。

これとともに大きな影響力を与えているのが家庭環境・地域社会・自然環境の変化である。私の住んでいる中山間地でも道路整備、耕地整理で大変便利になったおかげで老若男女を問わず労働力の殆どは町の工場、事業所に通勤する（転居・出稼ぎ・単身赴任なども含む）ようになった。

その結果親は家を空け、子供と話し合い、子供を躱け、教える（親の子供に対する教育の自信の無さもあるが）時間も僅かとなった。また子供達の遊び場で自然との触れ合いの場だった小川も、川魚の住む所の無いコンクリートの堤となり、危険の為子供だけの立入りは禁止で、その上に田畑は機械化で、道路は車で、山も人手が無く荒れ果てて益々自然との触れ合いの場は少なくなり、子供達はテレビゲームをするか塾に行くしか無くなった。毎日の授業時間、生徒達と接

している間、その独創性の欠如、色々知識は持っているが善悪の見境のつかない人、思いやりや優しさに欠けている人、同じ教室に2年間も居ても話合いも挨拶も無く、まして名前も知らないと言うような自分(親しい者)だけの世界に閉じ籠ってしまう人などが如何にも多い。その上授業中はおしゃべりの時間、聞き分けの無い幼児のようなところがある。但し私の場合教え方も下手で、単調で眠くなるような面もあることであろうから、この分は相殺するとしても、学生達の受講態度の悪さ、モラルの低下は何処から来るのであろうか。子供はテレビゲームや詰込教育の中から社会性やモラルが身について来るものではなく、自然や、その地域の友達との遊びの中から(ガキ大将などの存在も含め)育まれるものと思われる。体験や体験を基にしたイメージが伴う知識が大切で、その時期が重要である。言い換えると、単なるテレビゲームの画像や塾の講師や大人から与えられるものを、そのまま無意識に受け取るだけの知識では役立たないということである。

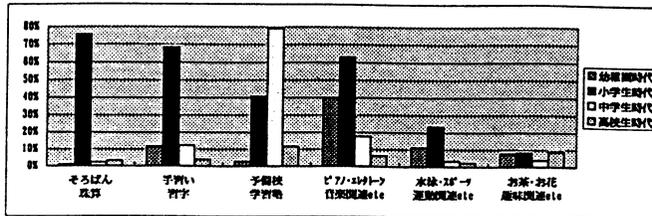
今迄の教育環境からは自分自身の意志で積極的に立ち向かう必要が無いから、如何に楽しく、出来るだけ要領よくその場を過ごすかということしか頭に無く、小利口な要領のよい子供が大量に出て来ることになると言える。そこからは昨今の長良川での若者同志の殺人事件(H6.10)など、安易な殺人、破壊などに転ずることすらあるとも言える。以上のように今迄の教育環境は地域社会、自然環境、家庭環境の変革(崩壊)と相関していると言える。この対応は急がなければならないものだと思う。

なお参考のために、このアンケートに参画した1994年度生が、どの程度学校以外の塾等に通ったかのデータを添付する。

1994年生（177人）について

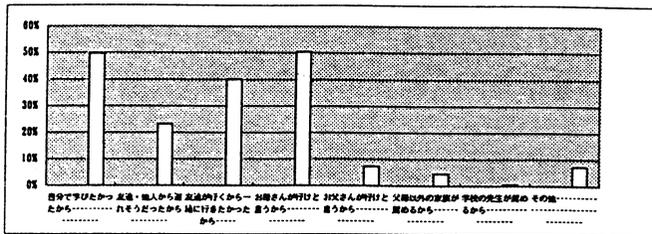
塾・お稽古事通学について（MA）

	珠算 そろばん	習字 手習い	学習塾 予備校	音楽関連 etc ピアノ・エレクトーン	運動関連 etc 水泳・スポーツ	趣味関連 etc お茶・お花
幼稚園時代	1.1%	11.9%	2.8%	40.1%	11.3%	7.9%
小学生時代	75.7%	68.4%	40.7%	63.3%	23.7%	8.5%
中学生時代	2.3%	12.4%	79.1%	17.5%	3.4%	4.0%
高校生時代	3.4%	4.0%	11.9%	6.2%	2.3%	9.0%



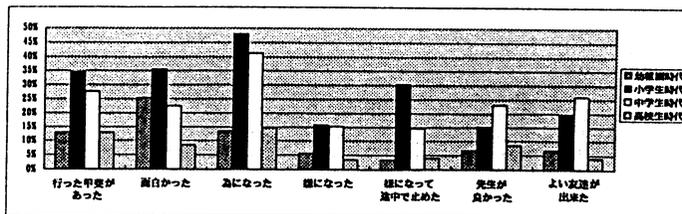
塾・お稽古事通学の動機（MA）

自分で学びたかったから	49.6%
友達・他人から遅れそうだったから	23.2%
友達が行くから一緒に行きたかったから	40.1%
お母さんが行けと言うから	50.3%
お父さんが行けと言うから	7.3%
父母以外の家族が薦めるから	4.5%
学校の先生が薦めるから	0.6%
その他	7.3%



塾・お稽古事通学の効果（MA）

	行った甲斐があった	面白かった	為になった	嫌になった	嫌になって途中で止めた	先生が良かった	よい友達が出来た
幼稚園時代	13.0%	25.4%	13.6%	5.6%	3.4%	6.8%	6.8%
小学生時代	34.5%	35.6%	48.0%	15.8%	30.5%	15.3%	19.8%
中学生時代	27.7%	22.6%	41.2%	15.3%	14.7%	23.2%	26.0%
高校生時代	13.0%	8.5%	14.7%	3.4%	4.0%	8.5%	4.0%



3. 今学生に求められるものは

見方を変えて、地域振興の為の女性リーダーとしてよりも、今切実な卒業生の企業への就職活動状況を当てはめてみると、企業が望む人材とは前掲のデータから出て来る学生像はあまりにも乖離が大きい。

例として、戦後の企業社会の経過動向を見るのに、今迄の企業社会のキーワードを1960年代から今日迄を辿って見ると、

1960年代の「マーケティング」(4P)

1970年代の「生産性向上」「品質」

1980年代の「ジャストインタイム」「サービス」

1990年代になって「CS」「リストラ」「リエンジニアリング」「環境」「規制緩和」「価格破壊」

この延長線上に出てくるものは、21世紀に向かって何であろうか？ 今、企業は製造技術、マーケティング、組織の合理化、そして人件費の節約(含人員削減)等どれをとっても殆ど横並びに近くなって来ていると言える。今後21世紀に生き延びるためには、独創的な企画開発力、対応力と、その企業の社会に対する倫理性、道義性、環境指向性がより以上必要になるものと予測される。それには独創的な企画・開発・発想、柔軟な組織は当然として、より高度な倫理、道義、環境の各要素を企業活動の中に取り入れて行かざるを得なくなる。

企業が要求する人材、広くはこれからの日本の社会全体が欲する新しい人々、ひいては地域振興に望まれる若い女性の人間像も、同じ要素を持ったものが要求されるであろう。前掲のデータや日常の授業中の学生達の態度から来るイメージは、卒業してからの企業・社会が求めるものとはミスマッチするのではなからうか。

4. 応急的教育法は

それではこのアンケートから出て来る様な学生像に対して、どの様な教育をして行ったらよいかは教育専門家の諸先生方のご指導をお願いするとして、今すぐ、とにかく即効性のある教育を施すには何をすべきか考えてみた。

教える側の技法の下手なものはご容赦して頂くとして、ここ数年の教壇体験として、以前の職場で制作した子供向テレビアニメ映画やテレビドラマの制作手法が役立った。

30分のマンガ番組の場合、視聴者の子供たちは10分余しか緊張感を持続して視聴してくれない、中CMで1息入れてまた後半へと構成する。また一番重要なポイントは何処に設定するか、そしてそこは出来るだけ(手間隙をかけ頭を絞って)面白そうな具体例で判り易く表現する等、そっくり今の学生に当てはまるような気がする。

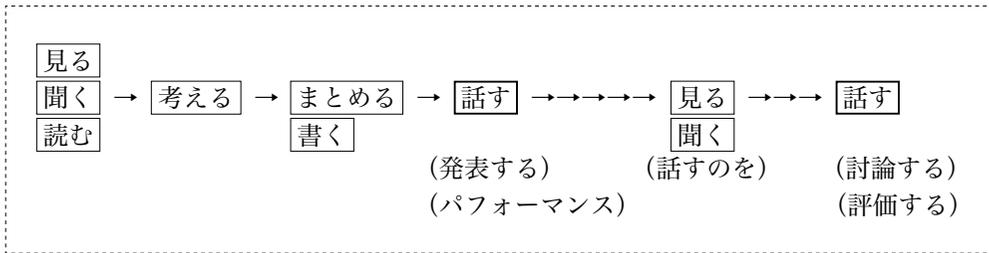
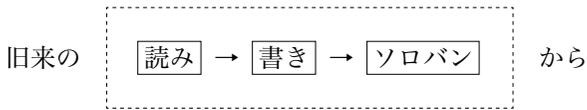
そこで地域振興のリーダー育成を目指しての応急的教育法としては

①. 構成は上記のマンガ番組制作形式

②. プロセスは次のように考えてみた。

特に話す事が上手でない現実から、ここに重点をおいて教育して行く。これは社会生活上の言語「読み書き話す」の中で、現在一番使われている割合を調べてみると、80%は話す

ことで使われているからである。それ故に



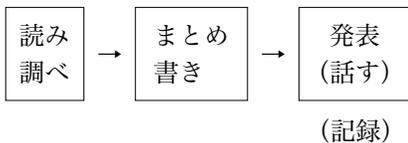
としてみた。

特に、話すことの例として、長年携わった企業の場合、何が大切だったかと聞かれれば「コミュニケーション」と言う答えになる。これも、単に若者達の間で氾濫している流行語やスラングを濫用するのではなく、敬語をきちんと知り、人をいたわる言葉を身につけての上であるが、お互いに通い合う言葉をもってである。たとえ話す技巧は巧くなくても、一貫した姿勢や論理性、豊かな創造力、豊かな人間性をもったものが必要とされるものである。

これらのことをベースとして教室の中でも、おしゃべりのエネルギーを逆利用して、例えて言えば、学生たちに出演ステージとしての場を作り、「貴女が主演者よ」という出番を創り、演技（パフォーマンス、発表、報告 etc）をやらせ、それを誉める（下手でも1つくらいは良い所があるもの）、そして達成感、満足感を持たせることである。重要なことは、自分から何も切出せない指示待ちの学生でも、自分から考え、行動させる要素のあるテーマを与え、まとめさせて、自分の意見を言わせることである。一方では、自分が言ったことから仲間外れにされるのではないかと心配するようなムードが出ないように、テーマ、方法などを面白く配慮しておいた上で発言させるようにすることも必要である。

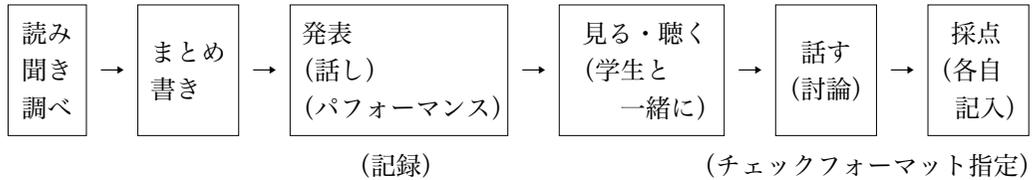
昨年迄の実験

テーマ＝ [こころのオシャレ：1]（講座「秘書特講」の中で）



本年からの実験

テーマ＝ [こころのオシャレ：2] (講座「秘書特講」の中で)



おわりに

人づくり，リーダー育成は難しい。学生の中には期待出来る人も居る。その人達が自分で考えることがいかに大切か，そしてそれを周りの人に如何に良く伝えることが出来るかをよく修得して，これからの地域振興のリーダーとして活躍して行ってもらいたいと祈っている。

- 1) 本アンケート方式は，前職場（CXTV）で取引先の代理店(榎博報堂の友人の紹介で同社の生活科学研究所の木村氏，小津氏のヒントから採用してみたものである。
- 2) 秋山仁「数学一直線（環境破壊は教育を破壊する）」QUARK－10－1994 123～125P（講談社）の一部を参考にした。